

文化・芸術のシーズンでもある秋。

9月17・18の両日、長野県などが主催する「第24回長野県障がい者文化芸術祭inたかもり」が高森町民体育館で開かれます。この催しは、県内の障がいのある皆さんの文化芸術活動の振興と社会参加の促進を図るとともに、活動の成果を発表し、その鑑賞を通じて障がいのある人もない人も、ともに出会いとふれあいの輪を広げることを目的に開催されています。新型コロナウイルス感染症の影響で、公開は町内にお住まいの皆さんとWEB上のみになります。が、今回初めて高森町が会場となります。高森町吉田在住の大島捷子さんは、過去にこの芸術祭に水墨画を出品し、奨励賞を受賞。芸術分野のほか、スポーツの分野でも活躍されています。今回も出品を予定する大島さんに、絵を描き始めたきっかけや作品づくりへの思いなどを伺いました。

文化・芸術 × たかもり



絵は同じ題材でも、書き手の個性や特徴が反映され、全く違った表現で描かれる。そういったものを見比べるのも、楽しみ方の一つ——。

おおしま しょうこ
大島 捷子さん(83)
高森町吉田在住

昭和13年に飯田市三穂で生まれ、天龍村、阿南町など南信州各地で幼少期を過ごす。先天的な股関節脱臼があり、手術やリハビリを経験。日本墨絵会主催「日本墨絵展」で長野県議会議長賞などを受賞したほか、「第22回県障がい者文化芸術祭」の絵画部門では奨励賞を受賞。卓球などスポーツの分野でも活躍し、2017年開催「第17回全国障害者スポーツ大会笑顔つなぐえひめ大会」の肢体不自由の部で準優勝の成績を収める。

水墨画を始めたきっかけを教えてください。

社会福祉協議会の方の紹介で、60歳の退職と同時に老人大学（現在のシニア大学）に入学しました。最初の2年は水墨画の講座を選ばなかったんです。字が下手で手紙もうまく書けなくて「自分の名前ぐらいはうまく書けるようになりたい」と、自分たちで「ペン字講座」をつくりました。ベテランの人たちのグループはあったのですが「筆ペンで書けるぐらいのグループを」と。飯田美術博物館へ行って先生をお願いしたところ快く受けてくださり、今でもその先生のところまで習っています。当時は30人ほどいましたが、今も残っているのは2人だけ。あとは新しいメンバーが入って一緒に活動しています。老人大学でペン字講座を始めて2年がたったころ、水墨画の講座の方から「入って欲しくないか」と声を掛けていただきました。ペン字も水墨画も講座が月に1回だったので、それで水墨画を始めました。

昔から絵は得意だったのですか
もともと絵は得意な方ではなかったんです。習い始めて1年目、日本墨絵会の「第7回日本墨絵展」で、牡丹を題材にして初めて作品を出しました。

「最後に、皆さんへメッセージをお願いします
絵は同じ題材でも、書き手の個性や特徴が反映され、全く違った表現で描かれます。そういったものを見比べるのも楽しみ方の一つだと思います。今回の作品展も、そうした個性的で表現力豊かな作品がたくさん並ぶと思うので、町民の皆さんにはぜひ足を運んで生で見て楽しんでいただきたいです。」

す。花の重なり具合のところは難しいですね。重なっているように見せなければいけないけれど、色をそんなに濃くするわけにもいきません。どうしたら思いどおりの出来になるか思案しながら描いています。

水墨画を始めるまでのことを教えてください。

「日本墨絵展」の第7回と続く第8回で特選を、第9回には「長野県議会議長賞」を受賞されていますが、作品はどのように制作していますか
墨の粒子が細くなるように墨の重さだけですので、墨をするのに1時間かかります。そして作品に合った筆を選び、筆に含ませる水分の量を調節して墨の濃淡を表現します。気乗りしたときは描けますが、決まるまでは時間がかかります。同じ工程と構図で2枚描いて、どっちを出品するかは最終的に決めます。初めてのときは何枚も何枚も描きました。できる人はチャッチャッチャツと描きますが、私は何枚も何枚も描かないと気に入ったものがないんです。

題材にはどんなものを選んでいますが
花や植物が多く、特に牡丹が好きで



父の仕事の関係で、子どものころは天龍村平岡や阿南町和合、松川町生田などで過ごしました。先天的な股関節脱臼のため見た目や歩き方に難がありましたが、日常生活への支障はなかったです。でもお医者さんには、「いつか痛みが出る」と言われ、高校を卒業してすぐに手術を受けてしばらくは松葉杖の生活でした。リハビリの甲斐あって歩けるようにはなりましたが、走ったりできなくなっていました。その後、両親が豊丘村に家を建てたタイミングで高森町に就職し、定年まで37年勤めました。

マレットゴルフや卓球など、スポーツでも活躍とうかがいました
マレットゴルフは若いころから、リハビリのためにやっていました。ただ、歩けなくなってきたからは立ったまままでできる卓球を60歳で始めました。町の身体障害者福祉協会のクラブな



卓球の練習をする大島さん

どに参加するようになり、2007年には肢体不自由の部で長野県代表として全国障がい者スポーツ大会に出場しました。結果は準優勝。合宿のとき、開会式の選手団行進で当時の皇太子さま、現在の天皇陛下へ手を振る練習をしたのを覚えています。普段は健康者の皆さんが練習をサポートしてくれています。ラリーの相手になってくれたり、球拾いをしてくれたり、体育館の階段で押し車や荷物を全部持って行ってくれたり。私が「ありがとう」と言う「当たり前のことをしてるんだから、お礼なんて言わなくて良いよ」と言ってくれます。本当にありがたく感謝しています。

ここまでいろいろなことに夢中になれるのはなぜですか

もともと何事も突き詰めたタイプなので、どんなことにも一生懸命に楽しんで取り組んできました。マレットゴルフや水墨画はリハビリの目的もありましたが、一番は「自分一人でき

第24回 長野県障がい者文化芸術祭 in たかもり

※鑑賞には事前予約が必要です。健康福祉課までご連絡ください。



第21回展示の様子

町民限定公開日
◆日時 9月17日(金) 9:00~16:45
9月18日(土) 9:00~13:00
◆会場 高森町民体育館 (高森町下市田2180)

鑑賞申込 高森町 健康福祉課 福祉係
問い合わせ先 ☎35-9412